

**自分の思いを豊かにふくらませて意欲的に制作活動に取り組む子どもの育成**

～主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を通して～

新潟市立日和山小学校  
大矢 奎哉（H29年度）

**（主張）**

これまでの図画工作の授業では、子どもが一人で作品作りをしていても、アイデアが広がりにくく、意欲的に製作できていないのではないだろうかという疑問があった。

そこで、作品を作るだけでなく、友達と考えを伝え合う「言語活動」を取り入れる授業を行うことで、子どもが自分の思いをふくらませ、意欲的に製作活動に向かうことができるのではないかと考えた。

本実践では、子どもたちが、親しみをもっている地域を題材に活動を行った。地域に親しみを感じ、感謝を伝えるステッカー作りという目的意識をもたせることで、学びを深めることを目指した。

言語活動を通じて、児童は、自分の思いを整理したり、相手の考えを取り入れたりすることで、意欲的に製作活動に取り組んでいた。また、何を描いたらいいかわからず、困っていた児童は、友達にアドバイスをしてもらうことで様々な考えを膨らませ、表現することができた。

このことから、児童は、友達と考えを伝え合う「言語活動」を通して、自分の思いをふくらませ、意欲的に製作活動に向かうことができるといえる。